

モラルサイエンス研究会（平成 31 年 4 月 10 日）発表要旨

企画体自己の日本文化への適応可能性について  
—FCA を用いた CCI のインパクト調査研究から明確化に焦点を当てて—

教育研究室  
研究員 木下城康

現代のキャリア支援で問われている課題は「職業に自分を合わせるか、自分に職業を合わせるか、あるいはその両方か」となるだろう。社会の変化と雇用の流動性により、これまでのやり方では支援ができなくなったキャリア支援の心理学は、急速な変化を遂げている。それが、個人の生きる目的のために職業を活用する視点である。サビカスはその旗手に位置づけられる。

サビカスのキャリア構成理論は、カウンセリング心理学のナラティブ/社会構成主義アプローチのなかに位置づけられるキャリア・カウンセリング理論であるが、実践的特徴は質的アセスメントを活用することにある。

サビカス論で用いられる質的アセスメントは、キャリア構成インタビュー（CCI）であり、6 問の半構造化面接をクライアントに合わせて柔軟に使用することができる。また、CCI の効果を測定する評価法には、未来の自伝語り（FCA）がある。面接の前後で将来の仕事や生活について作文しその比較を行い語りの方向性の質の変化を分析する。本論では、2 件の事例を用いて前後の語りを分析した結果、「漠然とした職務から特定化された職務」、「人生の質が冒険へ」「漠然とした願望が特定化された願望」に変化したことが確認された。